

# 学生会だより

## 九州学生会の活動

九州学生会は、福岡東地区（3校）、福岡西地区（5校）、佐賀・長崎地区（3校）、熊本地区（5校）、大分地区（3校）、宮崎・鹿児島地区（5校）、沖縄地区（1校）の大学17校および高等専門学校（高専）8校、計25校により構成されている。委員長校および幹事校は地区のローテーションで担当を決め、2010年度は大分大学が委員長校を務めた。

主な行事は、総会、顧問会や幹事校会等の会議、見学会等の地区事業、メカライフの世界展、全国学生交流会や

研修会への参加、卒業研究発表会である。以下に九州学生会の主な活動状況を報告する。

### 1. 地区事業

地区事業は、①学生員の能力向上の機会を提供すること、②学生員に日本機械学会に所属することのメリットを与え、退会を抑制すること、③地区を活性化することを目的とし、地区ごとに担当校を決めて講演会、見学会、座談会、親睦会などの事業を実施している。2010年度は、表1に示すように福岡西、長崎・佐賀および宮崎・鹿児島地区において見学会や競技会を実施し、目的に沿った活動を行った。なお、参加人数はそれぞれ40名程度で

あった。

### 2. メカライフの世界展

実際にメカに触れ、機械工学を通して小中学生に対する科学技術教育に貢献するとともに、一般の方々へも機械工学の魅力をアピールするため、メカライフの世界展を表2に示す14校で実施した。図1に宮崎大学で開催されたメカライフの世界展の様子を示す。各校とも興味深いテーマを取り上げ、多くの小中学生に参加してもらうことができた。

### 3. 卒業研究発表講演会

第41回九州学生会学生員卒業研究発表講演会が、2010年3月9日に宮崎大学において開催された。発表件数は231件、参加登録者数は314名で10教室を使って活発な議論が行われた。また、卒業研究発表講演会終了後の懇親会にて、優秀な講演発表を行った25名の学生に対して、九州支部より優秀講演賞が贈呈された。

〔宮崎大学工学部 機械システム工学科 准教授 長瀬慶紀〕

表1 九州学生会 2010年度 地区事業

地区（担当校、実施校）	実施日	内容
福岡西（久留米高専、福岡大）	8/2	工場見学会（新日鉄八幡製鉄所）
長崎・佐賀（佐賀大、佐賀大）	8/31	コンペティション（ミニ四駆大会）
宮崎・鹿児島（都城高専・鹿児島大）	11/27	工場見学（株）九州タブチほか）

表2 九州学生会 2010年度 「メカライフの世界展」

実施校	実施日	テーマ
鹿児島大	8/6	メカワールド2010 in Kagoshima University
佐賀大	8/11	機械にふれてみよう
都城高専	9/23	ようこそメカワールドへ
北九州高専	10/19	機械を操るインターフェイス技術を体験する
九州産業大	10/24	KSU ロボットプログラミングコンテスト「秋のロボット運動会」
鹿児島高専	10/30	水素で動くクルマ
熊本大	10/30	夢科学探検2010
大分大	10/31	ロボットと遊ぼう
久留米高専	11/3	メカトピア2010
福岡大	11/4～6	「メカライフの世界」展
佐世保高専	11/7	エンジンの仕組みや蒸気力を体験しよう！
九州大	11/20～21	サイエンスワールド2010
九州工業大	11/20～21	メカニクスポ～Mechani-Expo 2010～
宮崎大	11/21	メカライフの世界展



図1 メカライフの世界展（宮崎大）

**北陸信越学生会の活動  
(北陸信越学生会)**

北陸信越学生会は北陸信越支部地域の10大学6工業高等専門学校を学生を中心に運営されている。参加校間の移動には片道6時間程度かかる場合もあるため日帰りでの行事は不可能に近く、そのような地理的状況の中で学生会の活発な運営を長年にわたり取り組んできたといえる。ここでは2010年度における各行事の活動状況と将来の課題について報告する。

**1. 幹事校会の開催**

2010年度は2回の幹事校会が信州大学工学部で開催された。第1回は運営委員16名、および、幹事・顧問教員1名、第2回は20名の運営委員、および、幹事・顧問教員2名の出席があり学生会活動について意見交換が行われた。

第1回幹事校会の後、タクシーに分乗してオリオン機械(株)本社工場(須坂)の見学を行った。見学の後の質問の場で、運営委員から積極的な疑問や意見が出て、活発な話し合いの場となった。夕方には長野市において懇親会を開いて運営委員の交流を深めた。残念ながら帰りの列車の都合で参加できない運営委員も多くいたが、幹事校会出席者のうち、半数程度の参加があった。人数が少ない分、各校の事情など、学生同士の濃密な情報交換の場となった。

また、第2回幹事校会に合わせ、



図1 第2回幹事校会に併せて開催された支部特別講演会

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の泉耕二先生をお招きし、「日本の交通システムの変化と世界の航空宇宙の今」と題する特別講演会が支部行事として開催された(図1)。さらに、当日の晩、泉耕二先生を囲んで座談会を飯綱町の宿泊施設、マウンテン・ヴィラ タキハウスで行った。出席者は19名の運営委員、幹事・顧問教員2名の出席があり、総勢22名の大きな座談会となった。お招きした講師の本当の意味での「刺激的な」言葉に、多くの学生が耳を傾け、さまざまな意見を述べていた。

**2. 「メカライフの世界」展の開催**

2010年度「メカライフの世界」展は表1に示す5校において実施された。各校とも機械工学の中での興味深いテーマを取り上げ、趣向を凝らしてわかりやすい実験や展示を心掛けていた。

**3. 学生員卒業研究発表講演会の実施**

第40回学生員卒業研究発表講演会が2010年3月4日(金)に信州大学繊維学部において開催された。発表件数は173件、参加登録者数は270名であった。今年度は14室の会場で28セッションが執り行われた。卒業研究1年間の総まとめとして取り組んできた研究について学生が自ら発表し、その発表に対して聴講している学生も含めて活発な討論が行われた。今回から講演論文集の印刷の代わりに、電子化した講演論文をCDとして無料で配布し、それに伴い、各



図2 第40回学生員卒業研究発表講演会の懇親会

講演室に各セッション分の論文を20部配布した。新しい試みではあったが、大きな混乱はなかった。

学生員卒業研究発表講演会の後、学生会総会が行われた。講演会参加学生に学生会の具体的な活動についてお知らせするよい機会となった。総会の直後の懇親会は30名ほどの参加があった。初めは懇親の輪も各校のグループごとに分かれていたが、お酒が進むうち他校の学生と話を始める参加者が見られた。懇親会の途中で各県ごとに壇上に上がり、学校の紹介をした(図2)。

**4. 今後の学生会活動について**

今年度の活動の中で最も良かった行事を上げるとすると、座談会が上げられる。最初に述べたように、北陸信越支部は支部地域の学生が手軽に集まり、何か話をする地理的状況ではない。しかし、集まる困難さがあったからこそ、せっかく集まったのだから「みんなで話そうよ」という雰囲気も出てくることもある。このことは今後の学生会活動に多いに参考になると思う。大げさな言い方だが、北陸信越支部において学生会の親睦をさらに深めていく試行錯誤は、逆に一般の学術学会で失われつつあるサロンの雰囲気を取り戻す方法をわれわれに教えてくれるかもしれない。

(信州大学工学部 機械システム工学科 准教授 松原雅春, 金沢工業大学工学部 機械工学科 准教授 杉本康弘)

表1 北陸信越学生会2010年度「メカライフの世界」展

学校名	開催日	テーマ名
長野工業高等専門学校	2010.7.3	ロボットに触れよう
金沢大学	2010.8.5~6	鳥人間滑空機と機械工学
富山大学	2010.10.2	疑似科学をあばくームベンバ効果の実験的検証からー
福井工業高等専門学校	2010.10.15~17	サイエンスフェア'10
新潟工科大学	2010.11.20	風力発電機を作ろう!